

2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月7日

上場会社名 株式会社ロブテックス 上場取引所 東
 コード番号 5969 URL <https://www.lobtex.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 地引 俊為
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 経営管理本部長 (氏名) 森下 幸治 TEL 072-980-1110
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	1,301	△5.0	79	—	88	—	57	—
2026年3月期第1四半期	1,369	△2.5	△17	—	△12	—	△23	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 122百万円 (—%) 2026年3月期第1四半期 △11百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	31.01	—
2026年3月期第1四半期	△12.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	8,443	5,028	59.6
2026年3月期	8,418	4,961	58.9

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 5,028百万円 2026年3月期 4,961百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2027年3月期	—				
2027年3月期（予想）		0.00	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,730	0.3	180	△1.2	180	△5.9	120	△2.3	64.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	2,000,000株	2026年3月期	2,000,000株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	132,660株	2026年3月期	132,600株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	1,867,380株	2026年3月期1Q	1,867,400株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間の我が国経済は、雇用や所得環境の改善が見られた一方で、物価上昇の継続、金利・為替の変動、中東の不安定な情勢の長期化などによって、先行きは依然として不透明な状況が続きました。

このような状況の下、当社グループでは、経営ビジョン「モノづくりのプロに応え、モノづくりの愉しさを育む」、経営スローガン「私たちは工具を通じ、あらゆるモノづくりの要求に応えるとともに、つくる愉しさを伝え広げる事で社会に貢献します」の発信と浸透を更に進め、経営課題である「業務の整流化を徹底し、利益体質の強化を図る」を追求し、経営目標達成に向け努力してまいりました。

そして、その経営ビジョンを推し進めるにあたり、経営課題の解決に向け、すべての考動の軸を商品とするために、これまで分離していた製販組織を一体化し、企画、開発から営業までを一気通貫で事業部が担うことで、より市場環境に適合した事業戦略を構築し、収益力の強化を図るべく、事業統括本部を設置しました。

配下には、ハンドツール事業部とファスニング事業部の2事業部を置き、営業と開発担当をそれぞれの事業部に配置し、共通の利益目標に向かって全員が「一蓮托生」で取り組む体制としたことで事業収支改善の徹底による「業務の整流化」と「利益体質の強化」を図りました。

ハンドツール事業部では、開発から生産までの商品化プロセスを加速させ、安定的且つ効率的供給体制を構築し、特に生産拠点であるグループ会社、鳥取ロブスターツール株式会社との連携を図ることによりエビ印ブランドの根幹である作業工具を中心に国内外共に市場占有率を高め、収益力の強化を行いました。

ファスニング事業部では、需要が増加している接合作業の自動化装置など、ファスニング分野のさらなる伸長を図るため、リベッティングに留まらないファスニング自動化システムの推進、コンストラクションファスナーの事業化、総合的なファスニング事業ビジョンの構築を目指し、技術開発、営業、アフターサービス部門が一体となり、お客様の要求に“きめ細やかに”そして、市場ニーズを的確に捉えるべく製販一体となって対応しました。また、グループ会社でありファスナー専門商社の株式会社ロブテックスファスニングシステムと連携の下、営業力の強化を図り、同社の管理、品質、技術部門を当社と連携することで販路拡大に特化・集中できる体制としたことにより、省人化を目的としたリベッティングの自動機やシステム物件の引き合いが増加傾向にあり、着実に受注に結びつきました。

その結果、売上高は前年同期比5.0%減の1,301百万円（前年同期1,369百万円）となりましたが、利益面におきましては、営業利益は79百万円（同17百万円の営業損失）、経常利益は88百万円（同12百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は57百万円（同23百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①金属製品事業

ハンドツール事業では、国内売上においては、電設工具が好調でしたが、海外売上において、特に韓国における市況の低迷が影響し、電設工具及びレンチ類の販売が低調に推移しました。また、新シリーズである“J-CRAFT99”においては販売を強化し、国内海外ともに新規取扱店の拡大が進んでいます。

一方、ファスニング事業においては、2024年6月に連結子会社である株式会社ロブテックスファスニングシステムを100%子会社化したことに伴う一部商品のグループ会社外への移管による売上減少の影響がありましたが、この点については、他商品の販売により、移管前の売上高に回復してまいりました。また、国内・海外ともに省人化を目的としたリベッティングの自動機やシステム物件の引き合いが増加傾向にあり、特に国内では着実に受注・売上に結びつきました。

その結果、金属製品事業の合計売上高は、前年同期比5.1%減の1,235百万円（前年同期1,302百万円）となりましたが、セグメント利益については、商品の原価改善や経費節減により、44百万円（同50百万円のセグメント損失）となりました。

②レジャー事業

ゴルフ練習場における売上高は、サービス向上や集客施策を実施してまいりましたが、一人当たりの売上高は前年と同一水準となりましたものの、天候や気温などの影響により、来場者数は減少し、前年同期比2.3%減の65百万円（前年同期67百万円）となりました。セグメント利益については、経費節減に努めた結果、同7.7%増の35百万円（同32百万円）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は8,443百万円となり、前連結会計年度末に比べ25百万円増加しました。

（資産）

流動資産は前連結会計年度末比65百万円減の5,533百万円となりました。これは主に現金及び預金が増加する一方で、受取手形及び売掛金が減少したことによるものです。

固定資産は同91百万円増の2,910百万円となりました。これは主に減価償却の計上による減少がある一方で、投資有価証券の時価上昇や設備投資の実施による増加があったことによるものです。

（負債）

流動負債は前連結会計年度末比73百万円増の2,371百万円となりました。これは主に短期借入金が減少する一方で、買掛金が増加したことによるものです。

固定負債は同113百万円減の1,044百万円となりました。これは主に繰延税金負債の増加がある一方で、長期借入金が減少したことによるものです。

（純資産）

純資産は前連結会計年度末比66百万円増の5,028百万円となりました。これは主に配当支出による減少があるものの、投資有価証券の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の増加や親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加があったことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年3月期の連結業績予想につきましては、2026年5月12日に発表しました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,975,711	2,269,551
受取手形及び売掛金	1,124,274	741,333
電子記録債権	197,830	130,413
商品及び製品	1,513,923	1,579,926
仕掛品	349,012	396,546
原材料及び貯蔵品	306,734	323,019
その他	130,947	92,450
流動資産合計	5,598,436	5,533,242
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	662,390	650,212
土地	668,226	668,226
その他（純額）	483,831	469,166
有形固定資産合計	1,814,449	1,787,604
無形固定資産	30,202	33,524
投資その他の資産	975,066	1,089,621
固定資産合計	2,819,718	2,910,750
資産合計	8,418,154	8,443,992

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	259,680	365,092
短期借入金	1,519,864	1,487,212
未払法人税等	57,020	37,692
その他	461,758	481,365
流動負債合計	2,298,323	2,371,362
固定負債		
長期借入金	972,558	824,544
退職給付に係る負債	91,777	95,709
その他	93,737	123,886
固定負債合計	1,158,072	1,044,140
負債合計	3,456,396	3,415,502
純資産の部		
株主資本		
資本金	960,000	960,000
資本剰余金	493,710	493,710
利益剰余金	3,346,290	3,348,183
自己株式	△164,534	△164,606
株主資本合計	4,635,466	4,637,287
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	326,292	391,202
その他の包括利益累計額合計	326,292	391,202
純資産合計	4,961,758	5,028,490
負債純資産合計	8,418,154	8,443,992

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）
売上高	1,369,907	1,301,847
売上原価	991,906	842,583
売上総利益	378,001	459,263
販売費及び一般管理費	395,829	379,529
営業利益又は営業損失（△）	△17,828	79,734
営業外収益		
受取配当金	11,719	14,258
その他	3,325	3,804
営業外収益合計	15,044	18,063
営業外費用		
支払利息	8,354	9,360
その他	1,121	115
営業外費用合計	9,475	9,476
経常利益又は経常損失（△）	△12,258	88,321
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△12,258	88,321
法人税等	11,081	30,406
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△23,340	57,915
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△23,340	57,915

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△23,340	57,915
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,405	64,910
その他の包括利益合計	11,405	64,910
四半期包括利益	△11,935	122,825
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△11,935	122,825

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書 計上額
	金属製品事業	レジャー事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,302,370	67,537	1,369,907	1,369,907
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,302,370	67,537	1,369,907	1,369,907
セグメント利益又はセグメント損失（△）	△50,674	32,846	△17,828	△17,828

(注) セグメント利益又はセグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書 計上額
	金属製品事業	レジャー事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,235,849	65,997	1,301,847	1,301,847
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,235,849	65,997	1,301,847	1,301,847
セグメント利益	44,354	35,379	79,734	79,734

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	55,086千円	46,357千円